

2016年3月25日発行

## 都市でも深刻な高齢化

先般、自宅のある東京の西東京市でも今季初の本格的な雪となり、10センチほどの積雪があった。水分を多く含んだ重い雪で、雪かきはけつこうな重労働であった。仕事で出かける前に可能なところまで車が通る道路の雪かきをしたものの、しばらく足元が悪い状態を余儀なくされた。

この雪かきをしながらあらためて痛感したのが、自宅周辺はほとんどがお年寄りで、雪かきできる人はごく限られているということであった。以前であれば何人もが雪かきする風景があつたが、誰も見えない。農村の高齢化についてはよく指摘されるが、都市における高齢化も深刻であり、自治会の役員会で話をみると、独居老人の家もけつこう多いようだ。

## みんなの居場所

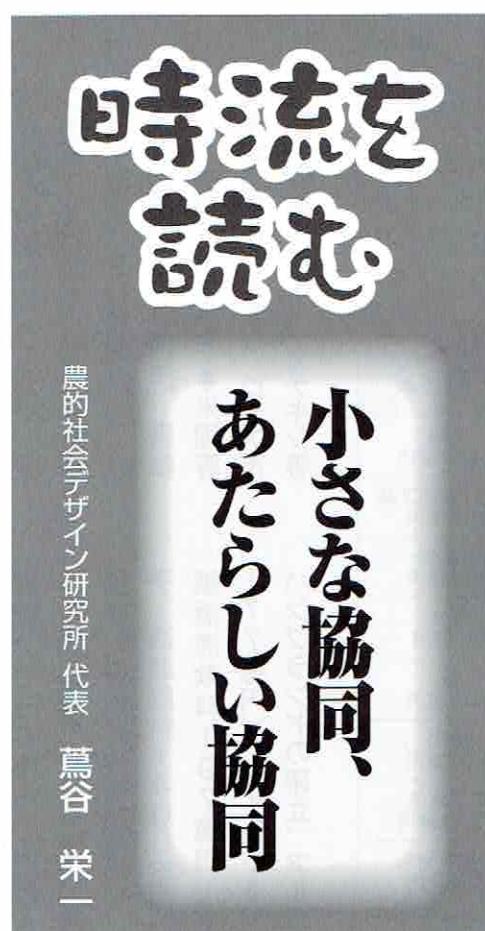
話は一転するが、自宅から自転車で15分ほどの同じ西東京市内に「仙人の家」がある。これは自宅

を解放しての「地域のみなさんの居場所・コミュニティカフェ」であると同時に、介護をしている人がホッとひと息つくための「ケアラーズカフェ」、認知症の人やその家族も楽しめる「オレンジカラーズ」もある。

ここにはお年寄りがひつきりなしに出入りしているだけでなく、使われている。ここにはお年寄りがひつきりなしに出入りしているだけでなく、使われている。

「ほつとネットステーション」は、行政に依存するのではなく、市民が持つ専門性・特技等を生かして市民自らが地域の課題解決に取り組んでいく仕組みで、「ほつとネット推進員」は260名に達している。まだ一部の対応にとどまっているが、この人数は地域の力を象徴しているともいえる。

財政がひつ迫する中、西東京市をはじめ都市でも地域の力で地域の課題を解決していくトライアルが始まられている。まさに小さな協同、あたらしい協同への挑戦である。人それぞれができることを、地域で積み上げていく。ここにしか地域再生のカギはない。



## 地域の力を引き出す

この「仙人の家」は西東京市の

通りがかりの主婦がのぞき込んだり、仕事の合間にここで休憩する外交員もいたりなど、まさに地域の居場所となっている。

「みんなの居場所『地域の縁側プロジェクト』」に登録している協力団体の一つで、西東京市にはこうした団体等が昨年末で16ある。

そしてこれら団体等は西東京市の「ほつとネット推進員」とも重複しながら「ほつとネットステーション」を支えている。

「ほつとネットステーション」は、行政に依存するのではなく、市民が持つ専門性・特技等を生かして市民自らが地域の課題解決に取り組んでいく仕組みで、「ほつとネット推進員」は260名に達している。まだ一部の対応にとどまっているが、この人数は地域の力を象徴しているともいえる。

財政がひつ迫する中、西東京市をはじめ都市でも地域の力で地域の課題を解決していくトライアルが始まられている。まさに小さな協同、あたらしい協同への挑戦である。人それぞれができることを、地域で積み上げていく。ここにしか地域再生のカギはない。